

氏名	三宅 優紀
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5876 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Association between Occupational Dysfunction and Metabolic Syndrome in Community-Dwelling Japanese Adults in a Cross-Sectional Study: Ibara Study (横断研究における地域住民の作業機能障害とメタボリックシンドロームとの関連: 井原スタディ)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 浜田 淳 教授 四方賢一

### 学位論文内容の要旨

本研究では、岡山県井原市の地域住民において、作業機能障害とメタボリックシンドローム(MetS)との関係性を、健診を受診した 1,514 名を対象とし、検討した。作業機能障害の種類と評価(CAOD)の合計点を低値群、中等度群、高値群の3分位に分け、CAOD 低値群に対する高値群の MetS とその関連要因の多変量調整オッズ比(OR)をロジスティック回帰分析で算出した。CAOD 低値群と比較し高値群では、MetS の OR は 1.92 [95%信頼区間(95% CI):1.17-3.17]で、より65歳以上で顕著であった。肥満群では、脂質異常の OR は 2.08 (95% CI:1.17-3.68)で、65歳以上で顕著であった。65歳未満では、高血圧の OR は 2.02(95% CI:1.05-3.89)であった。以上より、作業機能障害は MetS、脂質異常、及び高血圧と関連があることが明らかとなった。

### 論文審査結果の要旨

作業機能障害は、作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化の4つのカテゴリーで構成され、先行する医療従事者における研究で高血圧、肥満、睡眠障害との関連が指摘されている。一方一般住民においてメタボリックシンドロームと作業機能障害との関連性についてはまったく知られていない。

本研究では井原市の健診受診者 1514 名を対象として作業機能障害とメタボリックシンドロームとの関連を検討し、作業機能障害はメタボリックシンドローム、脂質異常症、高血圧のリスクであることが示された。

委員からは、研究の対象となった地域住民の特徴について質問があった。主に退職した高齢者や農業従事者などから構成されており、そのような対象者にも作業機能障害の評価が適応可能で、将来の健康障害を予測するよい指標であると回答した。

本研究は作業機能障害とメタボリックシンドロームとの関連性を日本人地域住民で初めて明らかにした研究であり、メタボリックシンドローム予防の方法として作業機能障害への介入の意義についても重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。